



いまは今
vol.161

発行 今井町並み保存会
発行日 平成25年11月1日
電話 0744-22-1128
http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp

◇ご意見・ご感想は
今井まちづくりセンターまで

まほろばソムリエ検定体験学習が

今年も実施されました

9月28日(土)、今年で4回目となります「奈良まほろばソムリエ検定体験学習プログラム」(主催:奈良商工会議所・今井町並み保存会)が実施されました。

毎回、募集用パンフレットに記載していますが、この体験学習で学んでもらいたいもの一つに「今井の人々の本物のおもてなしを味わっていただく」という項目があります。

「おもてなし」といえば、I・O・C総会でのスピーチで、滝川クリステルさんが日本人の精神をあらわす言葉として用い、2020年の東京五輪開催を決定づけたともいわれる言葉でもあります。

その「おもてなし」の心が形に表れている一つとして、今井町並み保存会では「大和今井の茶粥」を参加者に召し上がっていただきます。いつもは旧米谷家で行っていますが、

今回は重要文化財・高木家のかまどを使わせていただきました。当日の様子を高木さんが文章にしてくださいましたので、



日本写真家協会会員で体験学習参加者の上田康彦さん撮影の写真を高木様よりお借りしました

ここに掲載します。

奈良まほろばソムリエ検定の体験学習で今年には高木家のかまどを使って薪で炊いた、「大和今井の茶粥」を味わっていただきました。

「大和今井の茶粥」にはこだわりがあります。米は明日香村の千枚田で取れた棚田米、水は天川村洞川のごろごろ水、お茶は大和高原の自然栽培茶、吉野葛を使ったごま豆腐と葛餅、材料は大和産のものだけを使います。スタッフの人達は時計を見ながらの作業で、いかに一番おいしいタイミングで召し上がっていただくかに心を砕いていました。

これが、本当のおもてなしではないでしょうか。

高木さんも言われている「本当のおもてなし」は、体験学習プログラム参加者にも実感していただけていることでしょうか。

より多くの人たちをおもてなしのできるよう、これからも活動を続けていきたいと思っております。

HANARART2013

今井町地区は閉幕いたしました

9月27日(金)より開催されていた「奈良・町家の芸術祭HANARART2013」は無事閉幕いたしました。

期間中、多くの人たちが今井町を訪れ、古い佇まいをみせる町家と現代アートのコラボレーションを楽しんでいました。

また「テルミンの演奏」や「羊の毛刈り実演」など、普段は見たくても簡単には見ることができないものもあり、今井町住民のかたにも楽しんでいただけたのではないのでしょうか。(ちなみに「テルミンの演奏」の際、左手で音量を調節していることを私は初めて知りました。)

これら以外にも作品をいくつか写真におさめてきましたので、掲載したいと思います。(上:小松原智史さん 下:羊と子どもの絵)



全国町並みゼミ倉敷大会報告(1)

今井町並み保存会 会長 若林稔

第36回全国町並みゼミ倉敷大会は9月20日～22日まで開催され、今井町並み保存会からは大村、工藤、西敷が参加、町並み保存の在り方を各分科会に分かれて勉強してくれました。

私は19日の理事会から参加し、役員諸兄と貴重な時間を共有しました。

特に今回は全国町並み保存連盟の発足40年を来年に迎えるための資料収集と、開催の在り方が話題の一つに取り上げられました。

全国町並み保存連盟は皆さんご存知のように昭和48年に今井町にて第1回妻籠・有松・今井合同町並み保存協議会でスタート、翌昭和49年に、妻籠・有松・今井の団体で「町並み保存連盟」を結成、昭和50年に5団体になったのをきっかけに「全国町並み保存連盟」に改称され、全国ゼミ大会は昭和53年に第1回大会を足助で開催した。

連盟の根幹となった今井町での「第1回妻籠・有松・今井合同町並み保存協議会」から40年の記念すべき準備会合に、監事として立ち会えたことで、改めて今井が持つ町並み保存の歴史の重さを感じた。

そして来年の全国ゼミ鹿島・嬉野大会(佐賀)では40周年記念大会として今井町の名が再び会場で多く語られるであろうことが予測

されます。

全国町並みゼミが保存連盟のまさに新年で、保存運動に関わる全国の会員が集い、語らい合う、記念すべき来年の佐賀大会へは、今から準備していい活動報告を沢山のひとと発表しに行きたいものです。

※参考までに妻籠は毎回5～10人、有松からも今年は10人参加されていました

今井町並み保存会 常任理事 西敷公志

9月21日(土)私は「まちなみを活かし、暮らし続ける歴史・くらし・ひとのつながり」をテーマとした玉島会場での分科会に参加しました。

玉島は、江戸時代に瀬戸内海屈指の港として賑わった町で、昭和42年に倉敷、玉島、児島で三市合併されました。合併により地域に対する自信や誇りが薄れてきたと感じた中、玉島らしい資源として注目したのが「ものづくりと商い」で醸造業、和菓子、茶舗、紙問屋、ソース等々、10社をこえる「百年企業」ツアーを企画しファンを増やしています。

町を元気にするためには、会社(商い)も元気に！町歩きでお邪魔した会社の社長さんからのお話に感心しました。(実際しゃべりもうまいです。)

またワークショップ・交流会では、町並み保存に汗を流して取組んでいる人、興味のある人等様々な方々のご意見もいただき大変参考になりました。ありがとうございました。

和やかなしあわせ感漂う

今井寄席終演しました

10月13日(日)「まちづくり亭今井寄席」奈良大学落語研究会「古都家一門」のおかげで改めて日本語が持つ魅力を堪能させてもらえました。一生懸命に演者の皆さんがネタを披露しておられるのがよく伝わり、我々も笑ったり、しぐさに微笑んだり心癒される一夜でした。来年は会場一杯にあふれんばかりの笑いの渦で「古都家一門」をお迎えしましょう！

テレビ放映の予定をお知らせします

今井町は、これまで何度もテレビや新聞に取り上げられてきました。これは今井町住民全員が、町を守りそだててきた賜物であると思えます。今回、新たに二つのテレビ番組の撮影が今井町で行われたので、ここでお知らせいたします。

一つ目はすでに放映済みとなりますが、BS日テレの「ホストのある日本の風景」(10月28日午後9時54分)という番組、もう一つはテレビ大阪の「大人旅歩き旅」(11月2日午後6時30分)、奈良テレビでの放映日は現在のところ未定です。

どちらの番組もまちづくりセンターで見られるようにするつもりですので、視聴できなかった場合はセンターでご覧ください。